

(2)大豆優良品種候補「中育14号」について

中央農業試験場畑作部 畑作第一科(指定試験)

1.はじめに

大豆作に基大な被害を与えるダイズわい化病¹⁾に抵抗性を有する良質多収品種を開発するため、昭和46年に「中育14号」(鶴の子在来よりの純系分離)を母、ダイズわい化病ほ場抵抗性²⁾品種「黄宝珠」(中国産品種)を父として人工交配した雑種後代から選抜し、生産力検定試験⁴⁾、特性検定試験³⁾、奨励品種決定調査⁵⁾を実施し、育成したものである。

2.特性の概要

本系統はダイズわい化病に対してほ場抵抗性を有し、耐湿性も「トヨスズ」なみにやや強く、熟期は中生の晩に属する。ダイズシストセンチュウおよびマンシンクイガの抵抗性はない。ダイズわい化病の発生が激しい対象地域では、平取町の無防除試験で「キタホマレ」の収量が3.3kg/aであり防除試験に比べ著しく減収したが、「中育14号」の収量は24.9kg/aで減収は極くわずかであった。また、伊達市の防除試験では、「ユウヅル」より35%多収となり、無防除試験では「ユウヅル」の約3倍の収量であった。粒大は100粒重が約35gであり、「ユウヅル」と「トヨスズ」の中間で、大に属する。臍の色は極淡褐で粒揃いも良好である。

以上の結果から、本系統は従来の品種になかったダイズわい化病の抵抗性を有し、白目大粒で品質も良好で「トヨスズ」「ユウヅル」より多収である。

3.普及態度

本系統はダイズわい化病の被害が極めて多いことにより大豆作の低収かつ不安定な地帯である胆振、日高で「トヨスズ」「キタホマレ」およびその他の品種にかえ、道南の桧山北部、渡島北部では「ユウヅル」「白鶴の子」に変えて普及し、大豆作の安定化をはかりたい。

しかし、本系統はマメシンクイガ耐虫性は弱であるので必ず防除を励行し、ダイズシストセンチュウにも抵抗性はないので発生圃場での作付はさける。

◎中育14号の育成地における特性概要

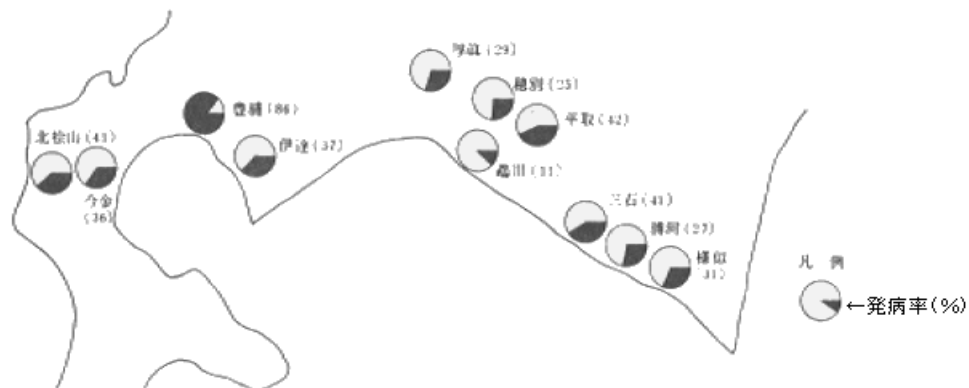
品種名\形質	早晩性	成熟期 (月日)	収量 (kg/a)	同比%	粒大	臍色	品質	耐倒伏	抵抗性		耐湿性
									ダイズ わい化病	シスト センチュウ	
中育14号	中の晩	10.13	28.6	108	大	極淡褐	上下	中	強	弱	中
トヨスズ	中の晩	10.1	24.5	92	極大	黄	中上	強	弱	強	中
ユウヅル	晩	10.2	26.5	100	大の小	黄	上下	中	弱	弱	弱

◎中育14号のダイズわい化病防除および無防除の現地試験(昭和58年)

試験 場所	防除の 有無	系統 または 品種名	ダイズ わい化病 発病率 (%)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	収量(kg/a)		子実重 対標準 品種比 (%)	子実重 対防除 比 (%)	100 粒重 (g)	品質
						全重	子実重				
平取町	防除	中育14号	15.1	10.11	多	57.3	28.6	97	100	35.1	上下
		キタホマレ	35.7	10.11	中	52.3	29.4	100	100	34.9	中上
	無防除	中育14号	35.9	10.12	多	53.1	24.9	75	87	35.5	上下
		キタホマレ	96.4	未成熟	無	29.5	3.3	100	11	23.2	中下
伊達市	防除	中育14号	11.3	10.11	少	55.6	28.4	135	100	36.8	上下
		ユウヅル	22.5	10.16	多	42.7	21	100	100	44	上下
	無防除	中育14号	23	10.11	少	48	22.8	278	80	35.6	上下
		ユウヅル	52.9	10.16	多	28.8	8.2	100	39	34.8	中中

注1)アブラムシ防除区は施肥時にエチルチオメトン粒剤0.6kg/aを施用し、無防除は無施用である。

図1 日高、胆振および桧山北部におけるタイズわい化病の発生状況（昭和58年）



- 1) タイズわい化病はアブラムシにより伝染するウイルス病で、発病した株の子実は肥大しない。
- 2) ほ場抵抗性とは発病の仕組みが明らかでないが実際栽培で抵抗性が認められる。
- 3) 特性検定試験(耐病性、耐虫性、耐湿性などの検定を行い、特性を明らかにする)は55年から4年間実施。
- 4) 生産力検定試験(収量、成熟期、粗大などを既存品種と比較し、選抜の参考にする)は56年から3年間実施。
- 5) 奨励品種決定調査は試験機関で56～58年に3か所で実施し、委託農家では56～58年に空知7、石狩4、釧路4、胆振2、日高2、渡島・桧山3、計22か所で実施。

[目次へ戻る](#)